



FUJITSU ファミリー会 LS 研究委員会  
会員各位

LS 研 2012/0001 号  
2012 年 1 月 13 日  
FUJITSU ファミリー会 LS 研究委員会  
幹事長 足立 伸男  
(第一生命情報システム株式会社 取締役常務執行役員)

## LS 研 2012 年度マネジメントサロン (部門長クラス) 参加者募集のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より FUJITSU ファミリー会 LS 研究委員会 (LS 研) の活動にご支援賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、LS 研では、2012 年度マネジメントサロンの参加者募集を行います。

マネジメントサロンは、人脈形成と相互啓発を目的として、業界の最新動向(市場、経営、ICT)や情報システム部門のあり方などについて毎月 1 回 18 時より飲食しながらくつろいだ雰囲気の中で意見交換を行います。

参加された方から、異業種の方との人的交流が大変有効であったとのご意見を頂戴しています。つきましては、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

敬具

### 記

1. 開催期間 : 1 年間 (2012 年 4 月～2013 年 3 月)
2. 開催日 : 月 1 回 (18 時～20 時 予定)
3. 開催場所 : 参加企業の施設および富士通施設
4. 募集 : 東京地区 および 関西地区 各 1 グループ (15 名程度/グループ)  
※定員になり次第締め切らせていただきます。
5. 参加費用 : 飲食費として 年間 ￥50,000/名 (内 消費税 ￥2,381)  
※4 月初旬に請求書を送付させていただきます。
6. 申込方法 : LS 研 Web サイトよりお申込みください  
<http://jp.fujitsu.com/family/lksen/>  
※ご参加確定につきましては 3 月中旬に事務局から連絡申し上げます。
7. 申込期限 : 2012 年 2 月 24 日 (金)
8. 備考 : 本案内は、名義人および連絡責任者の方にお送りしています。

以 上

問合せ先 : LS 研事務局 担当: 福田、川嶋、黒岩、沖野  
(富士通 カスタマーコミュニケーション統括部内)  
Tel: 03-6252-2581 E-mail: contact-lsken@cs.jp.fujitsu.com

# 2012 年度マネジメンツサロン 実施概要

## 1. 目的

マネジメンツサロンは、会員の企画部門長、および情報システム部門長クラスの方を対象に、業種・業界の最新動向（市場、経営、ICTなど）や企画／情報システム部門のあり方などについて意見交換を行う会です。人脈形成と相互啓発を目的としています。

ユーザ視点でマネジメントに関する議論を行うマネジメンツサロンを目指して、参加者の自由な討議を行います。

## 2. ご参加のメリット

- 異業種の参加者との意見交換が自己啓発となり、大きな成果が得られる
- LS研の“Give & Take”の精神により、新たな人脈が形成できる
- 自社の悩みについて、意見交換から解決策のヒントが得られる
- 異業種間での新たなビジネスモデルのきっかけが生まれる

## 3. 活動方法

(1) 期間：1年間（2012年4月～2013年3月）

(2) 開催日：月1回（東京地区：第2／第3火曜日、関西地区：第2水曜日）

	東京地区	関西地区
第1回	4月10日(火)	4月11日(水)

(3) 開催時間：18時～20時（予定）

(4) 開催場所：参加企業の施設および富士通施設

東京グループと関西グループの東西交流を年1～2回程度実施  
東京／関西近郊で開催しますが、年に1回程度、地方開催予定

## 4. ご参加の条件

- LS研会員で企画部門長、および情報システム部門長クラスの方
- 月1回開催する会合に、継続して出席が可能な方（代理出席は不可）
- 意見交換したいテーマをご提案いただける方  
例) 先進技術の利活用とその課題について  
経営に貢献するIT部門の役割について  
次世代を担うIT人材育成について  
業種・業界でのホットな話題（市場、経営、ICTなどの最新動向）  
自社の取り組み課題

※自社の製品紹介はご遠慮願います

## 5. その他

- LS研幹事や富士通の関係部門が適宜参加予定
- 運営方法の詳細については、4月に参加者で検討して決定する予定

## (ご参考) 2011 年度マネジメンツサロン話題提供テーマ

経営に貢献するIT部門の役割／IT企画への取組、人材育成、リスクマネジメント、プロジェクトマネジメント、自社におけるBCP対応、IFRSのシステム対応、次世代端末、SNS活用事例、クラウド技術、生産流通における課題 等

以上